

スポーツへの医師の関わり

副院長・
リハビリテーションセンター長
中川 種史

ご紹介患者の症例報告

第8回 耳鼻咽喉科
部長 渡辺 悟郎

第9回 歯科口腔外科
部長 吉屋 誠

News & News

- 第11回地域医療懇話会・懇親会
の日程が決まりました
- 第5回せんぼ医療感染講習会
が開催されます
- 「市民公開講座」開催のお知らせ
- アルバムから



せんぼ
東京高輪病院
地域医療連絡室

〒108-8606
東京都港区高輪3丁目10番11号
tel:03-3443-9576 fax:03-3443-9570
URL:http://www.sempos.or.jp/tokyo

病院理念

私たちは、病に苦しむ人や障害に悩む人に科学的根拠に基づき最善の先進的医療を迅速かつ安全に提供するとともに、人権と個人情報の保護を心がけ、相互信頼に基づく快適な医療の実践に努めます。 せんぼ東京高輪病院

スポーツへの医師の関わり

せんぼ東京高輪病院副院長
リハビリテーションセンター長



なか がわ たね ふ み
中川 種史

8月に北京でオリンピックがありました。日本選手の活躍ぶりを見て、皆さまもテレビに釘付けになっていたことと思います。日本選手団の中には医師のメンバーも含まれており、本部と各競技の担当に分かれていました。試合結果は残念に終わりましたが、実は野球を担当していたのは当院にかつて勤務していた医師でした。

チームドクターの業務は、選手の健康管理、競技中の外傷への対応、栄養管理、ドーピングへの対応などがあります。私は、野球やバレーボールの選手を診察することが多いのですが、ラグビーチームやレスリング協会のドクターとしても活動しています。今回のオリンピックに関連する仕事としては、男子レスリング・グレコローマンスタイルの予選にイタリアまで選手団とともに参りましたので、今回はレスリング関係のチームドクターの業務についてお伝えしたいと思います。

まず試合の前日にメディカルチェックというものがあり、皮膚疾患やその他試合を行うにあたって問題がないかを、参加登録をした選手であるかどうかのチェックも含め行っています。チェックをするのは開催国の協会ドクターで、日本開催のときは日本のレスリング協会のドクターが行います。小生も日本国内の大会や日本開催の国際大会では協会のドクターとしてメディカルチェックを担当することがあります。

チームドクターの仕事は、その際に参加に支障のある事態にならないようまず状態をチェックし、書類やIDカードを忘れず携行するようにします。さらに担当ドクターから何か確認事項があった場合に、医学的に返事をして、スムーズにチェックが終了するようにします。その後計量

をします。これは1時間の間に行われますが、減量がスムーズにいかずに計量オーバーした選手は、最後の100gぐらいを、サウナに入ったり、走ったりして時間ぎりぎりまで汗をかき減量に努めます。そして計量直後、試合の組み合わせを抽選。大会の成績を左右する重要なものですから、各国のコーチは抽選結果に必死です。減量は、少ない選手で5、6kg、多い選手では15kgぐらいするのでかなり無理を強います。体調も崩していることが多いので、水分や栄養の補給につとめ、状態がひどい場合には点滴をします。以前外国チームなどではコーチが当然のように点滴をしていましたが、現在は医療行為と認定されないと規則違反になりますのでドクターの出番となります。

試合当日は選手とともにアップから会場に行きます。選手の動きをよく見て問題がないか、コンディションは良いかなどチェックします。試合中にも選手が外傷したとき、まずは会場のドクターが対応します。軽い出血などはお任せしますが、重いものはチームドクターが出て行き、救急車の要請が必要な場合は現地の協会にお願いします。国際大会では救急車は裏口に待機していることがほとんどで、すぐ救急隊員が現れます。フィリピンの大会では選手が肩関節を骨折して病院まで救急車で同行しましたが、他の国における病院の状態を知ることができました。

さらに選手が勝ち進むと、ドーピング検査の対象となる場合があります。世界アンチドーピング機構(WADA)の定める、競技に勝つために薬物などトレーニング以外の方法で競技力を向上させるような本来禁止されていることをしていないかを検査するのです。現在基本的に行われているドーピング検査の手法は、大相撲の大麻事件で

(裏表紙につづく)



いつも患者さんを紹介していただき、ありがとうございます。
今回はその中から数名の症例を提示してみたいと思います。

【症例】

症例1

68歳 女性 食道入口部異物(魚骨)
朝食時に、鮭を食べていて、骨が咽に刺さった。
内視鏡室で直達鏡下に魚骨を摘出した。



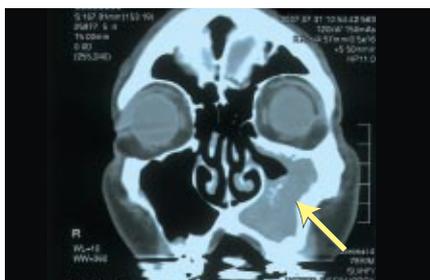
症例2

39歳 男性 ワルトン管内唾石
右口腔底隆起があり、顎下部腫脹は認めなかった。
CT検査で巨大唾石陰影を認め、全麻下に摘出した。



症例3

70歳 男性 左上顎洞真菌症(アスペルギルス)
CT検査で左上顎洞陰影と石灰化像を認めた。
局麻下に内視鏡下鼻内副鼻腔手術を行い、術後抗真菌剤を投与した。



症例4

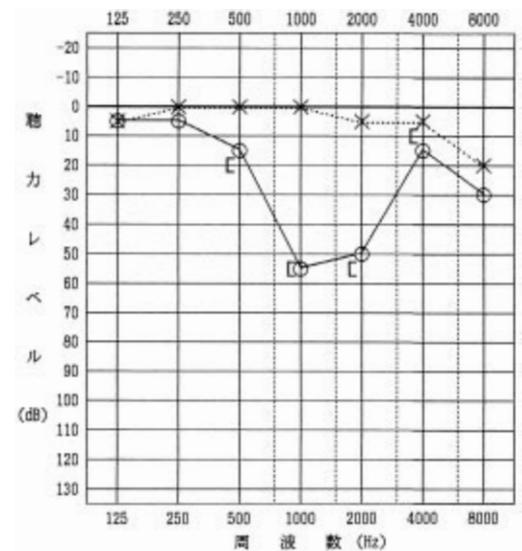
49歳 女性 左顎下腺腫瘍
近医で抗生剤の投与をうけていたが、顎下腺腫脹が軽減しないため、当科紹介され受診した。MRI検査で腫瘍陰影を認め、全麻下に腫瘍摘出術を行った。
病理の結果はadenoid cystic Caであった。



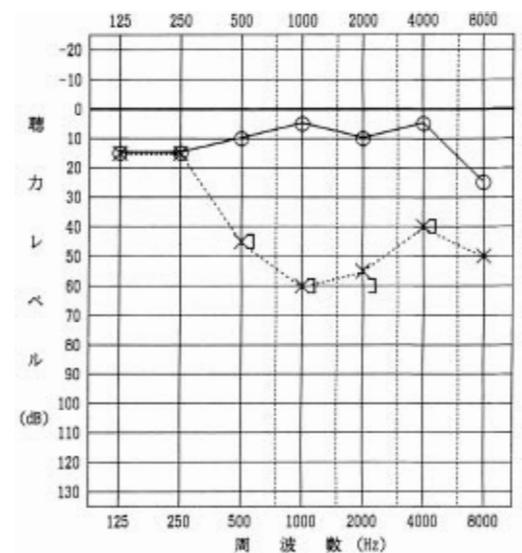
症例5・6

下図は症例5、6の初診時の聴力像を示す。症例5は右谷型の感音性難聴で、症例6は中～高音域にかけての感音性難聴を示している。2症例とも入院してステロイドの点滴治療を行い、聴力改善がみられた。症例6は入院中にインシュリンによる血糖のコントロールを同時に行った。

症例5 36歳 女性 右突発性難聴



症例6 64歳 男性 左突発性難聴 DM(+)



これらの症例の他にも興味ある症例があるのですが、今回は6例のみ紹介させていただきました。今後とも気軽に相談、紹介していただければ、適切な対応、処置をしていきたいと思っております。よろしくお願ひ申し上げます。

ご紹介患者の
症例報告 第9回

歯科口腔外科

部長 よしや 吉屋 まこと 誠



いつも患者さんのご紹介を賜り誠にありがとうございます。

昨年ご紹介いただきました交通外傷における下顎骨骨折の一例をご報告させていただきます。

【症例】

20歳男性で、平成19年10月14日にバイクで走行中にカーブで曲がりきれず電柱に衝突し、某病院救命救急センターに搬送されました。左側下顎骨骨折、左側腕神経叢損傷、左側鎖骨骨折、左側第一肋骨骨折、左側頸部挫創の診断で同院にてプライマリーケアを受けました。当院整形外科と口腔外科のチームアプローチを依頼されて、10月22日に転院され当科に入院しました。顔貌は左方に偏位し、写真1のように咬合時に正中線は左側にずれて右側臼歯部のみ接触し、開咬を呈して咬合不全を認めました。骨片の偏位を精査するために10月23日に三次元CTを撮りましたところ、写真2のように左側下顎角部で骨がすれ違っていました。10月26日に歯科矯正用ブラケットを応用したサージカルブラケットを歯牙に接着させて輪ゴムにて可及的な整復を開始しました。

10月31日に経鼻挿管全身麻酔下に口腔内アプローチによる観血的整復術を施行しました。まず骨折線上にある智歯を抜歯し、骨片を開いてfreeにしてから咬合を整復し0.3mm鋼線で顎間固定しました。次に0.5mm鋼線

で骨片を骨縫合し、チタンミニプレートを屈曲適合させて骨接合を行ってから顎間固定を解放しました。また、頸部皮膚の瘢痕修正も施行して手術は1時間40分で終了しました。手術当日の夕から流動食を経口摂取させ、4日目に主食は3分粥で副食は小刻みにして、さらに5日目には全粥食にupしました。また、オトガイ神経障害に関しましてはメコバラミンを投与すると共に鍼治療を継続しました。写真3および4のように整復固定状態、咬合状態も良好で11月9日に整形外科に転科しました。

顎間固定は術後の嘔吐による窒息の危険性や患者さんのストレスなどが考えられますので、ミニプレートで強固に固定した場合には術中に解放しています。その結果、術直後から経口摂取が可能になり開口障害も軽減され、患者さんの社会復帰も早まります。今回は多部位に渡る外傷を整形外科と連携しながら対応した一例をご報告いたしました。今後ともご紹介のほどよろしくお願ひ申し上げます。



写真1：初診時の咬合所見
下顎が左方偏位し開咬(open bite)を呈している



写真3：術直後のパントモ
骨縫合した鋼線と骨接合したミニプレート



写真2：術前の3次元CT
左側下顎角で骨片がすれ違っている



写真4：退院時の咬合所見
正中線（黒い線）も一致し正常咬合に

(表紙のつづき)

有名になった尿検査です。採取方法、検体の保存方法などがWADAにより細かく定められており、その手順に従って行われることになっています。レスリングでは、上位入賞者(たいてい1、2位)になった場合ドーピング検査の対象になるのでチームドクターは選手に付き添って、書類の記載、検体の採取、保存手法に選手に不利になることがないように手配します。正直言いますと、選手の成績が良いのはうれしいのですが、検査用の尿がA、B検体あわせて75ml採取できるまで我々もドーピングルームから出ることができません。選手たちは減量をして水分不足なのに加えて、試合で水分を消費しているのになかなか尿

が出ないこともしばしばあり、夕食を食べそびれてしまうほど遅くなってしまふこともよくあり、つらく感じることがあります。日本での大会においては検査する側にまわります。特に海外の選手は主張も強く、書類の説明ひとつとっても難儀することがよくあります。

なお当院においては、ドーピング検査の資格は私だけでなく自土部長もDCO(ドーピングコントロールオフィサー)を持っており、スキー協会のドーピング委員会副委員長として各種大会で活動しています。

スポーツ選手の外傷のみならずドーピングに関する問題があれば、お気軽にご相談ください。

News&News

第11回 地域医療懇話会・懇親会の日程が決まりました

毎年開催しております地域医療懇話会ですが本年は、来る11月28日金曜日に開催することとなりました。

会場は本年もグランドプリンスホテル新高輪で行います。日ごろ医療連携にご協力いただいております先生方と年に一度の顔合わせ、また意見交換の場として当院医師はじめ医療スタッフ一同心よりお待ちしております。詳細につきましては改めてご案内申し上げます。

先生方におかれましては、ご多忙中とは存じますがなにとぞご出席いただきますようよろしくお願い申し上げます。

第5回 せんぼ医療感染講習会が開催されます

感染症予防に関する情報提供の一環として開催しております「せんぼ医療感染講習会」も2007年7月の第1回以来2年目に入りました。毎回タイムリーなテーマで先生方はじめ医療関係者の皆さまにご好評をいただいております。感染症の流行するシーズンに備え第5回の講習会を下記の要領で開催いたします。今回は国立感染予防研究所の先生による講演を企画いたしました。

開催日時 平成20年11月25日 火曜日 午後7時00分～
場所 せんぼ東京高輪病院 外来ホール
演題 未定

「市民公開講座」開催のお知らせ

このたび新たな企画として、せんぼ東京高輪病院・港区医師会整形外科医会の共催により、「市民公開講座」を

下記の要領で開催することになりました。ぜひご参加くださるようお願いいたします。

テーマ 「手のしびれ」
日時 11月29日(土) 午後3時～午後5時
場所 せんぼ東京高輪病院 外来ホール

アルバムから

サマーコンサート
(8月22日)16時30分～
出演 SEASONS(シーズン)



編集後記

今年がかつて経験したことのない「ゲリラ豪雨」なる雷雨の襲来により、日本各地で土砂災害や浸水などの甚大な被害が報道されております。これも温暖化の影響なのでしょうか。猛暑日、熱帯夜が続くと思えば異常な低温日が8月に記録されるなど、気候変動の激しさに自然の脅威をあらためて感じております。

9月に入っても残暑が続く、秋にはまだまだといった陽気です。首相の突然の辞任による政界の動きもあわただしくなってきました。

11月の懇話会の日程が決まりました。地域医療連絡室スタッフ一同また先生方にお会いできるのを楽しみにしております。そのころには気候だけでも落ち着いてほしいものです。